

令和元年度主要研究課題

研究機関名：富山県環境科学センター

研究課題名	研究目的	研究の概要	研究期間	所 属
極端気象の予測による温暖化適応策の推進に関する研究 (温暖化による降雪の将来変化と消雪用地下水の合理的利用に関する研究)	降雪の将来変化が冬期間の地下水位へ与える影響を解析し、地下水の合理的利用の推進に役立てる。	文部科学省の研究プロジェクト「気候変動適応技術社会実装プログラム (SI-CAT)」に参加し、大雪の頻度など雪の降り方の将来変化に関する情報を得る。雪の降り方が消雪設備の移動、地下水揚水量に与える変化を踏まえ、地下水流動モデルを用いて、地下水位への影響を把握し、地下水利用の合理化の観点から、消雪設備の散水量、散水方法の見直しを検討する。	平成 30～ 令和 2	大気課
PM2.5 の越境／地域汚染の寄与に関する研究	PM2.5 の環境基準を達成・維持していくため、越境大気汚染の影響、高濃度の要因のほか、自動車からの影響を明らかにする。	平野部の汚染の影響を受けにくい立山に飛来する越境大気汚染物質や黄砂の化学成分を測定し、越境大気汚染の寄与について検討するほか、平野部における PM2.5 高濃度時の化学成分から発生源等について解析する。 また、自動車排出ガス観測局における PM2.5 の化学成分を一般観測局と比較し、自動車からの影響を解析する。	平成 30～ 令和 2	大気課
富山湾沿岸海域における栄養塩類に関わる水質環境に関する研究	河川の流入が沿岸海域に与える影響について明らかにし、富山湾の水質環境保全の推進を図る。	小矢部川河口海域においてメッシュ状の調査地点で水深別に栄養塩類、有機物及び植物プランクトン (クロロフィル a) の調査を行い、栄養塩類、有機物及び植物プランクトンの立体的な濃度分布や季節変動を明らかにする。 また、栄養塩類等と植物プランクトンの増殖の関連について、それらの分布の関係から検討する。	令和元～3	水質課
県内中小河川の河川環境特性に関する研究	中小河川の生物化学的酸素要求量に対する自然的要因の影響を研究し、汚濁負荷低減対策の基礎資料としての活用を目指す。	生物化学的酸素要求量 (BOD) が漸増傾向にある中小河川 (笹川) において、特に BOD が高くなる傾向がある時期に河川全体の調査を行い、要因を検討する。 また、特に自然的要因である藻類に着目し、河床付着藻類量、クロロフィル a 及び栄養塩類と BOD との関連性を研究する。	平成 29～ 令和元	水質課
災害時における化学物質の初期モニタリングと廃棄物対策に関する研究	災害時における化学物質の全自動同定定量データベースの構築と流出拡大防止に関する技術情報を整備する。	災害時における化学物質の河川への流出に際して、環境モニタリング及び流出拡大防止措置を迅速かつ効率的に行えるよう、国立環境研究所との共同研究により全自動同定定量データベースを構築するとともに、その成果を活用して本県の測定体制の整備に役立てる。 また、化学物質ごとに流出拡大防止に有効な資機材等の情報を整理するとともに、地理情報システム (GIS) を用いて、事業所の位置及び化学物質名とともに地図上で見える化する。	令和元～3	生活環境課